

## 河川における土木遺産の 評価と伝承法に関する研究\*

—— 富士川22選の選定について ——

A study of evaluation and the succession of the heritage of infrastructures in Rivers in aspect of civil engineering history.

竹林征三\*\*, 望月 正\*\*\*

By Seizou TAKEBAYASHI, Tadashi MOCHIDUKI

河川における土木遺産とは何か。それは人間が河川とのかかわりの歴史の中で営々と築いてきた治水施設（堤防）や河川の恵みに感謝する利水施設等の中で特にその歴史的意義の大きいものであろう。それらの土木遺産の価値をどのように評価し、その意義をどのように後世に正しく伝承していけばよいだろうか。

本研究では、富士川22選を事例として、この課題に取り組んだ。

はじめに

人間は河川を従来、「治水」「利水」「環境」という3つの側面からとらえてきた。私共は、別の観点に立ち「知水」「敬水」「馴水」という3つの側面から考えた。

河川と人間との沿川におけるかかわりの歴史をまず徹底的に調べ、河川の本性を知る。一番目はすなわち「知水」である。次は、その地における河川の本性を知れば、河川に対し自ずら敬虔な気持ちにならざるを得ない。二番目はすなわち「敬水」である。敬虔な気持ちで河川に処する方法は水の本性に逆らわず素直になじむ工法となる。三番目はすなわち「馴水」となる。この三つの観点より、富士川沿川の各所に残る人間と河川との多様な関わり合いの模様の事例を数多く（約200ヶ所）収集し、内容を調べ分類した。それらを「知水」としては、富士川の場合そのほとんどは破堤と復旧の歴史的箇所「人と水

との斗いの場」そのものである。敬水としては、川の本性に対する伝説や祭事や心に強く敬虔な気持ちを起こさせる箇所を「敬水」の場とした。更に、富士川の本性に馴んだ伝統的な治水工法の場合を「馴水」の場と分類した。

それらを、河川に係わる各界の権威者により選考審議という評価により「人と水との斗いの場」11ヶ所、「敬水」11ヶ所、そして「馴水」を「特別指定」とし3ヶ所選定し、富士川22選と特別指定3ヶ所とした。更に指定された箇所の市町村長に認定証を交付した。これらの一連の手法により河川における土木遺産が評価され、更に後世に間違いなく伝承されていくことになる。

### 1 富士川と人々とのかかわりの歴史を秘めた箇所 や事例の事例収集

富士川の源流から河口まで沿川55市町村にわたり

\*Keywords: 土木遺産、河川、治水、敬水、馴水、

伝承

\*\* 正会員 建設省土木研究所環境部  
(〒305 茨城県つくば市大字旭1番地)

\*\*\*正会員 (社) 雨水貯留浸透技術協会  
(〒102 東京都千代田区平河町1-4-5)

上記の事例を徹底的にたずね歩き、事例収集を行った結果、約200事例を収集した。それらを事柄の性質により16の大項目に分類した。以下にその概要を記す。

(1) 富士川治水に関わる神代の伝説

- ・ 鰐沢町の鬼島に崩れかかった石像がある。(蹴裂明神)である。
- ・ 甲斐の国が、湖であったという「湖水伝説」がいくつかある。その一つは武淳川別命が、岩を裂き、川を開いて、甲府盆地をつくったという。
- ・ 富士川の禹之瀬を瀬立てて出口をつくった(瀬立不動)。
- ・ 富士川の出口に穴を切り開いた(穴切明神)。(佐久神社)には、大岩を切り開いたという土本昆古王が祭ってある。

(2) 記紀の時代の富士川の治水

- ・ (酒折の宮)で、日本武尊が東征の帰りに、曲玉を放り込んで甲府の湖水を沈めたのが富士川治水の始まりである。
- ・ 行基菩薩が、(禹の瀬)を切り開いたことは、中国の禹王の治水にも匹敵することから、禹の瀬の名前のいわれともなった。

(3) 富士川の優れた伝統治水工法

a) 御勅使川の治水

- ・ 御勅使川の治水は、信玄流治水である。むかしの御勅使川を制するために設けられ(将棋頭)は、いまでも残る。(旧御勅使川)は、在では八田村を通る道路になっている。
- ・ 釜無川と合流するところには、(堀切)と(十六石)、(高岩)がある。

b) 釜無川の治水

- ・ 釜無川にみられる信玄の治水として残されているものには、(高岩)(信玄堤、霞堤)(1番出し、2番出し)(常永川の霞堤)がある。これは400年を経た今もその機能を十分に保っている。
- ・ (三社神社)の祭りは、富士川の治水の祭り。
- ・ 山地からの土砂は、河床を次第に高くしていく。このために更に堤防を高くするくり返しになる。
- ・ 右岸の信玄堤ではねかえされた洪水に対するた

めに、秋山将監が築いた堤防が(将監堤)としていまでも残る。又、堤防を守る(中聖牛)群が今も残っている。

c) 笛吹川の治水(差出の磯、万力林)

いまは市民の散策の場となっている(万力林)は、笛吹川の水防林として、信玄が(雁行堤)を築き、更に15haの田畑を廃して、植林を行ったもの。かつては、竜王の鼻、(近津堤)とともに、県下三大難所といわれ、洪水の度ごとに決壊を繰り返したところである。

d) 富士川下流部の治水

- ・ 富士川下流の治水は、(古郡氏三代)の偉業の歴史でもある。いまでも残る(雁堤)と、その下流には、(帰郷堤)がある。
- ・ 帰郷堤は、破堤で住民がそれぞれ遠くへ移住を余儀なくされ、新しく堤防を築いた後に、やっとふるさとへ帰ってきたという、悲しく苦しい歴史がそのような名前となったもの。その他、(一番だし)(2番だし)
- ・ (岩本山実相寺)は日本ではじめての治水事業の事務所ともなった寺である。その他(水神)(護所神社)

(4) 富士川独自の合流処理

- ・ 「目に青葉、山ほととぎす初かつお」の句で有名な山口素堂は、白州町の人。富士川で、それぞれの個性の違う川が自然のままに合流すると、破堤が生じる。このため、合流の処理には、いろんな工夫がなされてきた。
- ・ 先にあげた素堂は、濁川の流路を延長して、勾配を確保してから合流させた。(濁川改修の碑)
- ・ 荒川、濁川の合流には、非常に長い導流堤をつくった。
- ・ 導流堤で、最も長いものが鎌田川で、笛吹川の左岸を6キロにもわたって走っている。
- ・ 山地からの急流な支川は多くの場合、本川と直角に合流する。その典型が(大武川)、(大柳川)。
- ・ 早川の合流点は、他では例の少ない非常に川幅の広い、土砂量の多い恐ろしいところである。

(5) 災害、破堤の復旧の歴史と人々の逸話

- ・明治44年洪水で、笛吹川、重川、日川の合流点  
が約1キロ破堤し、河川の流路が変わった。  
いまの平等川のところが以前の笛吹川で、今の  
笛吹川は、昔の鵜飼川のところを流れている。
  - ・破堤の復旧の苦労をしのぶ逸話が多いが、釜無  
川では（粘土お高やんの碑）が田富町にある。
  - ・芦川の（青州堤）を築いた渡辺青州は明治時代  
の村長及び県会議員。芦川、笛吹川の合流点の  
堤防は延長17町で、私財を投じてつくられた。
  - ・下流部の（宮下の切れ所）では、過去に16回も  
破堤。
  - ・笛吹川の（甲運亭の障子）に書き残された「米  
きた、アスヤル」は明治40年の災害時、住民へ  
米の炊き出しを知らせ、不安の中に元気を与え  
たもの。
  - ・若草町には、破堤時の避難場所（避水台）があ  
った。
  - ・甲府市内の、舞鶴公園にある（恩賜林の謝恩碑）  
は明治40年の大災害に明治天皇が、山梨県の3  
分の1にももなる面積の恩賜林を下された。
  - ・（蒲原の水防組合）は、明治30年の古くから蒲  
原、富士川町等で結成された歴史あるもの。
- (6) 富士川の土石流被害の対策と復旧
- 土砂災害の激しかった大武川、武川村には、い  
まもたくさんの災害跡がある。特に57年災害で  
は、大敷ホテルがそっくり埋まりそのまま砂防  
堰堤の役割りを果たすことになってしまった。
- ・市之瀬川の砂防は、近代の県営砂防事業として  
の発祥の地でもあり記念碑が建てられている。
  - ・富士川は、糸魚川～静岡構造線に沿った地質で  
ぜい弱な地盤。〇〇くずれと名前のつけられた  
山地崩落の箇所が多くある。
- (7) 富士川における扇状地と天井川
- ・甲府には、三大水ケンカの地として、水不足か  
ら水の取り合いをしていたのが、①甲斐駒ヶ岳  
の麓、②金川扇状地、③御勅使川の扇状地。こ  
れらの大扇状地と天井川。
- (8) 富士川における水対策の歴史
- ・水不足を解消するためにつくられたのが各堰で、  
甲州三大堰もその一端。中でも徳島堰は、箱根  
用水、筑後の柳川堰とともに日本三大堰のひと  
つに数えられている。その他（朝穂堰）（楯無  
堰）
  - ・扇状地で水不足を補うために、溜池がつくられ  
た。
  - ・（竜地大溜池）は、数少ない溜池でいまでも50ha  
の灌漑に役立っている。
  - ・竜王高岩のところに、富竹新田をうるおすため  
の用水トンネルが残っている。官営14年（1  
637）代官・（平岡次郎右衛門の開削碑）も  
ある。
- 市川大門は和紙の里として有名だが、ここでは  
芦川のきれいな水が欠かせない他にも、富士川  
水利用には、清流を生かしての製紙業（とくに  
手すき紙）がいまも生きている。
- (9) 急流富士川の難所と水運の歴史
- a) 難所
- ・富士川の水運は角倉了以によって多くの悪場、  
水難所を切り開いてはじめられたが、その後も  
大洪水のたびに危険な箇所も増えたりして、水  
難事故は絶えなかった。
  - ・禹之瀬の下流の（天神の滝）、中富の早川合流  
点の（屏風岩）、富士川でただひとつ瀬戸島を  
つくっている（釜口）などは中でも最も難  
所とされていた。
  - ・（馬の面石）、（ねずみ石）……などいずれも、  
悪場につけられた名前である。
  - ・享保年間に、飯富の古屋弥次右衛門が、私費を  
投じて富士川の各所の開削を行った。以来水難  
事故は減ったと伝えられている。
- b) 角倉了以の偉業
- ・富士川の水難所を開削して、水運を興した角倉  
了以の（富士川水碑）は、鰐沢町、禹の瀬の白  
子にある。
  - ・その下流の岩淵には、（角倉の碑）がある。
- c) 河岸
- ・甲州三河岸といわれたのが、（黒沢）、（青柳）、  
（鰐沢）である。下流に（岩淵）の河岸があり、  
ここまでが舟で、あとは（蒲原の浜）までが陸  
路であった。

- ・（川留番所）も設けられ、十島にあった。（早川水運）は、木材の運搬のために行われたもの。

#### d) 横渡し

- ・富士川はたいへんな暴れ川で、かつては橋を架けることは、非常にむづかしかった。橋を架けても、すぐに出水で壊されてしまうため、とても橋の少ない川でもあった。
- ・富士川の縦乗り横渡しといって、河を渡るのは必ず舟ということだった。このため多くの渡し位置がいまも残っている。（両越の渡し）（早川渡し）（鈴川便道）（乙黒の渡し）（今福の渡し）（忍の渡し）（浜の渡し）
- ・富士川町の（八坂神社）は、富士川渡船鎮護の守護神で、上流から運ばれてきた二つの丸石を御神体として祭っている。

#### e) 富士川の橋梁

- ・時代は「渡し」から「橋」へと変わっていくが、一番はじめにつくられ、有料で通らせたの（旧身延橋）。
- ・（新早川橋）は、山梨県では一番長い道路橋。
- ・（浅原橋）は、かつては洪水のたびにごとに落橋をくり返したものの。
- ・（穴山橋）は、釜無川で最も古くからの橋といわれ、甲斐国志に残る珍しい歴史の橋。
- ・（甲運橋）は、山梨県内で初の初の水久橋である。

#### (10) 富士川の水力発電と水利用

##### a) 水力発電

- ・富士川の発電所は、まず芦川につくられた。日本では三番目の発電所である。（芦川発電所）
- ・（田代発電所）は、大井川から富士川へ水をもってきて我国初の（流域外分水）発電である。
- ・北伊奈ヶ湖の（野々瀬発電所）は、たばこ工場のための自家発電として、日本ではじめて。
- ・（塩の沢堰）（十島堰）共に発電用取水堰。

##### b) 動力水車

- ・（韭崎の水車）は、今の精米能力日本一。早川の（大島共同水車）も活躍している。

##### c) ダム

- ・（広瀬ダム）は、洪水調節容量をもつダムとし

ては、日本で一番標高の高いところへ建設されたロックフィルダム。

- ・（大門ダム）は、世界最大規模の地山アスファルトフェーシングを行った
- ・早川上流につくられた（西山ダム）は、完成後の2年目の洪水で土砂に満砂された。
- ・（雨畑ダム）は、日本軽金属株式会社が建設した発電用水を確保のためのダム。アーチ型式のダムとして、その薄さは日本というもの。
- ・今は美しい（千代田湖）だが、甲府市と荒川沿岸の村々との水をめぐる争いから、名所45年に知事裁断のもとに作られたもの。

#### (11) 富士川沿川の水の恵み～湧水群を中心に～

- ・環境庁による名水百選には、山梨県内から三ヶ所が選定されている。「忍の八海」「白州尾白川」と並んで「ハヶ岳南麓高原湧水群」として、（三分一）、（女取）（大滝の湧水）がある。
- ・神宮川は、以前は濁川といわれていたが、うまい水、いい水に由来して改名した。
- ・須玉町の三つの井戸は、扇状地（川は急勾配で降水の流れが早く、水が貯留されにくい）のオアシスでもある。
- ・甲府には、明治天皇にさし上げた御膳水の碑がある。これは、当時一ぱい5厘で水屋が水を買ってあるいたといわれる。
- ・白州町の南アルプス山麓の花崗岩地帯からは、ミネラルウォーターが湧出する。（井詰湧水）も、（ハヶ岳山麓の湧水）で、天然記念物となっている樹齢500年のモミの木の本根から湧き出ている。武田軍団が、信濃出兵のおりに小休止した故事もある。

#### (12) 地方病の克服

- ・杉山なか女は、現甲府市向町の農家の主婦。地方病で腹が肥大して苦しみながら、自分の死後解剖して原因の究明に役立てて欲しいと願い出た。ときに明治30年5月であった。この解剖で研究は進み、6年後、日本住血吸虫が、発見され、宮入辰之助により中間寄生の宮入貝がつきとめられていく。

#### (13) 富士川の秀れた景観と名勝

- ・富士川のすぐれた景観は、古来からの歌に詠まれているところも多い。（天皇陛下の歌碑）
  - ・鯉沢町には、禹之瀬に写る（逆富士）。
  - ・石和町のほたるは、甲斐八景のひとつ。
  - ・鎌田川、かつてゲンジホテル之棲息地で「鎌田川の蜚合戦」といわれた。  
いさわ川 夏なき波のよるよるは 水のほたる  
かげそ流るる輝光
  - ・韭崎の（七里岩）と（穴観音）は、ハヶ岳の火砕流が作った大景観で、富士川の違ったひとつの面を見せてくれる。
  - ・富士川町の（松並木）は、明治21年からのもの。
  - ・櫛形山麓の（南伊奈ヶ湖）は、明治100年記念の県民の森の一環となっている。
  - ・（白糸の滝）は、みそぎの場、霊場としても有名で、いまでもその姿をみることが出来る。
- (14) 富士川の支川の美しい渓谷  
（釜無溪谷）（川俣東沢溪谷）（尾白川溪谷）  
（獅子淵）（仙ヶ滝）（鎧淵と三挺淵）（姫ヶ淵）
- (15) 富士川にかかわる水信仰  
（鶴飼勘作伝説）（七面堂）（大滝不動尊）  
（笛吹権三郎の碑）
- (16) 富士川にかかわる伝統的なまつりと行事
- a) 湖水伝説に因むもの
    - ・海なし県には珍しい甲西町の（舟引き祭り）は、甲府盆地の湖水伝説をいまに伝える。
    - ・同じように、甲府市の小瀬には、むかし、湖底が現れたときに、水辺の12神のうちの9神が、人形に姿を変えて舞ったのが、（天津司の舞）として再現されている。
  - b) 雨ごいの祭り
    - ・（下黒駒の天神社）で行われる夏祭りは、境内の池で、ふんどしひとつの若者たちが水垢離をする。
    - ・八代町の石尊さんは（雨ごい信仰）。弘法大師が、護摩の灰でつくった雨ごい弁天。
  - c) 水難よけ祭り
    - ・白根町の有野にある（水宮神社）では、水難よけの祭りがある。
  - ・（室伏のうちはやし）は、甲州三御幸（一宮・浅間町、河内御幸）などとならぶもの。
  - d) 治水・利水の祭り  
（水神祭り）（平池水神講）（水神）（日寛上人のお祭り）（大御幸さん）
  - e) 川供用・火祭り
    - ・富士川流域では、（川施餓鬼）、川供養と呼ばれ、夏祭りが、各地に伝えられている。
    - ・波木井山では、堤防の上で、「土手固めの相撲」が奉納された利など、独特なもの。
    - ・（投げ松明）で、地域によって呼び方が違い、下部町では「ナギンデー」、富沢町では「あげちゃ松」という。
  - f) その他
    - ・石和町、長昌院の五穀豊じょうの祭り。「秋葉三沢坊まつり」といまはいわれている。
    - ・神興の川渡りは御幸のみこしが、三珠町の表門神社から、市川大門町の御崎神社へ、途中に芦川のなかを渡る。
    - ・甲府市のお田植え祭りは早乙女たちが、御神田に田植えをする行事。

### 3 「知水」「敬水」「馴水」の分類

水五則に表現された水の本性の真髄を思うとき、水を治めるとか水を利用するとかの言葉には、人間の水に対するやや傲慢な接しかたが潜んでいるように思えてならない。まず「知水」すなわち水を知り水の真髄を思えば、水に対しみずからま敬虔な、そして謙虚な気持ちにならざるを得ない。

「知水」の次は素直に「敬水」ということになる。河川技術者として河川に対するとき、まずその地における水と人間のかかわりの歴史などを徹底的に調べたうえで、その地における水の本性をうやまい、敬虔な気持ちで処さなければならない。すなわち「敬水」である。そして処方の基本を私は「馴水」と考えている。水の本性にさからう設計などは絶対に避けるべきであり、水の本性に素直になじむ工法をいかに行うかが河川技術の真髄であると思う。「治水」「利水」「環境」という観点も必要であるが、私は「知水」「敬水」「馴水」という観点

から、少なくとも河川技術 者は対処しなければならないと考えるものである。

以上に調査した約200の事柄や箇所を「知水」「敬水」「馴水」に分けなければならない。「知水」では余りにも人に具体的に訴えるイメージがわからない。富士川の場合、水の本性を知る事柄としては、その殆どが、人と水との壮烈な戦いの歴史である。「知水」を「人と水との戦いの場」とすれば若干ニュアンスが狭くなるが、イメージは浮かぶ。「敬水」は「水をうやまう」ことであり、イメージも悪くない。「馴水」は多くの人に訴えるにはイメージが定まらない。富士川の場合、「馴水の場」は万力林、信玄堤、雁堤どれも馴水の横綱級のものばかりである。馴水などと表現せず、特別に別格に格付けすれば良い。

次に200以上の事柄や箇所を更に「人と水と戦いの場」（知水）と水への敬虔な思いをおこさせる事柄（敬水）とに分けて見た。

人と水との戦いの場（知水）……129ヶ所

敬水……………83ヶ所

これでは余りにも多すぎて社会に訴えていけない。そこでこれらの中で同一箇所のものや、同一の内容のもの等を出来るだけまとめて見ることにしたが、それでも多すぎる。後世に思いをこめて伝承していくにはせいぜい一桁オーダーである。代表事例を選定が必要である。

#### 4 しぼり込みと評価の手続き

富士川の富士は「ふじ」すなわち（22）である。川は（3）である。富士川25選、すなわち、富士川22選と別格3選とすることとした。「人と水との戦いの場」と「敬水」は半々で11づつとすればバランスも良い。別格の3は万力林、信玄堤、雁堤であり知名度も高く数としては3でもその内容の深さに不足はない。

「知水」「敬水」「馴水」の全体のバランスも申し分ない。これで大きな骨子は決まった。

人と水との戦いの場……（知水）……11選

敬水……………11選

特別指定（万力林、信玄堤、雁堤）（馴水）

次にこれをどのように選定するか、それが問題である。建設省の甲府工事事務所が選定したとすれば余りにも軽すぎる。権威ある人による選定してもらうことにより、付加価値を高めたい。そして格調高く認定する儀式が必要である。付加価値の高さは選定メンバーの顔ぶれで決まる。その道の第一人者により慎重審議の経緯が不可欠である。選定委員会の名前もつけなければならない。名前は第一人者の集まりである。名は体を表す「富士川サミット」とする。会長は山梨県出身者の河川技術者の大御所、日本河川協会長の山本三郎さんをお願いした所、快くお引き受けしていただいた。その他のメンバーとしては河川工学の専門家として東京大学名誉教授の高橋裕さんと京都大学教授の芦田和男さん、地元から山梨大学教授の萩原能男さん、竹内邦良さん、砂田憲吾さん、地質学の専門家として山梨大学教授の西宮克彦さん、生物学の専門家として淡水生物研究所長の森下郁子さん、都市計画の専門家として、山梨県総合福祉計画審議会委員の飯田祥雄さん、郷土史の専門家として山梨県文化財保護審議会委員の佐藤八郎さん、富士市立博物館協議会長の鈴木富雄さん、報道関係からは静岡新聞社編集局長の大石嘉久治さん、山梨日日新聞社論説委員の中込 武久さん、それに地元の市町村を代表して山梨県砂防協会長の市川三雄さん、山梨県河川協会長の葦崎市長の内藤登さん、富士川とともに歩む会長、白根町長の名執齊一さん、静岡県からは富士川町長の常葉雅文さん、山梨県から山岳部の市町村を代表して早川町長の辻一幸さん、盆地部の市町村を代表して甲西町長の田中源男さん、それに後は私共建設省の甲府工事と富士川砂防工事の所長という構成である富士川を最も熟知した先生方ばかりであり、これ以上のメンバー構成は考えられない。

この富士川サミットのメンバーはそれぞれ富士川を熟知されているとしても富士川25選を選定するにあたり、その主旨に沿った目で現地を見ていただくことが必要である。

「人と水との戦いの場」と「敬水」の場を2日工程で委員全員参加のもとで現地視察を行い、歴史的背景、地理的背景について共通の理解を深めた。

## 5 シンポジウムでの慎重審議

現地視察の2日目、甲府において委員会を開き議論を深めた。今後共、河川を適正に管理していくたは、富士川流域の歴史的背景に基づく沿川住民の富士に対する正しい認識と理解が不可欠であ「富士川の猛威に対する正しい認識」「治水の伝統及び富士川の恵みに対する感謝の気持ち」あるいは「富士川を愛する心、美しくする心の育成」という事を沿川住民に啓蒙することが肝要であると言う共通の認識に立った。各委員が特にその重要性を強調された事項は下記の通りである。

高橋 …… 治水の伝統から、信玄堤、雁堤など  
芦田 …… 禹の瀬改修の歴史と富士川の砂防  
西宮 …… 地質と治水からみた七面山の大崩れ  
荻原 …… 急流河川における水害と復旧工法  
竹内 …… 富士川における水利用と渇水  
砂田 …… 富士川の河床変動とその対策について  
佐藤 …… 甲州の水信仰  
鈴木 …… 富士川水運の歴史  
森下 …… 河川の生態系と治水、河川景観の創造  
市川 …… 富士川の整備計画に思うこと  
内藤 …… 徳島堰と地域社会  
名執 …… 野呂川水道、その歴史  
田中 …… 五明調整工の完成と地域開発への効果  
辻 …… 早川町における砂防事業の意義  
常葉 …… 岩瀬港の今昔  
中込 …… 甲州三河岸の今昔  
大石 …… 富士川と富士川扇状地の開発  
飯田 …… 富士川の発電事業について

「水と人との戦いの場」や「敬水の間」を選ぶ場合の配慮事項として、次の五点が確認された。

- ①富士川として特徴的である事
- ②永続性のある事
- ③住民に親しんでもらえる事
- ④維持管理が比較的容易である事
- ⑤河川管理者が特にP・Rしたい事

全委員により「人と水との戦いの場」「敬水」にふさわしいと思うものに○印を、その中で特にふさわしいものに◎印を記す方法で投票した。

## 6 富士川22選と別格3選の選定

以上の経緯を踏まえて、サミットの先生方の投票により以下のように富士川25選が選定された。

富士川25選 特別指定箇所（3選）

伝統治水にみる防河法

- ①釜無川、御勅使川の治水
- ②笛吹川治水の要、万林林
- ③古郡三代と雁堤の治水

富士川25選 人と水との戦いの場（11選）

湖水伝説・舟運の歴史にみる治水

- ①湖水伝説と神々の治水
- ②甲州三河岸とアクバとの戦い  
山口素堂から現代まで、三川合流の工夫
- ③近津の難所と三川合流
- ④釜、笛、芦三川葛藤の間
- ⑤盆地、落水の水難所

富士川の土砂流出の猛威との戦いー砂防ー

- ⑥ムルドルの意見書と砂防黎明の地
- ⑦釜無川上流土砂流出の猛威  
天井川、内水、悪水が重なり合う甲府盆地
- ⑧山水、郷水、落合の間  
扇状地に水を求めて
- ⑨徳島堰と野呂川上水道  
富士川河口を高潮から守る
- ⑩日本一深い湾と高潮堤  
堤防づくりのしい作業をしのぶ
- ⑪粘土お高やんの日除け松

富士川25選 敬水（11選）

- ①深山、名水、西沢・東沢溪谷
- ②懸騰、電撃 釜無・尾白川溪谷
- ③奇岩、奇勝 御岳昇仙溪
- ④フォッサマグナ沿いの早川幽谷
- ⑤ハヶ岳南麓湧水群
- ⑥鶴飼勘作・笛吹権三郎伝説の地
- ⑦笛吹川の風情、差出の磯
- ⑧御製歌碑と松並木
- ⑨大御幸さんと信玄ヶヤキ並木
- ⑩富士川谷の火祭りと川供養
- ⑪河幅日本一と富士川緑地公園

## 7 伝承のためのより良きP・R

このように選定された富士川25選を出来るだけ多くの人にその主旨を知ってもらわなくてはならない。

昭和62年9月3日甲府市内で沿川54市長村代表とサミット委員出席のもとで山本三郎サミット議長より各代表に認定証と記念の盾が贈られた。

その後、山梨日日新聞に鶴田圭吾記者の文と写真による「人と水・富士川25選」と題した特集が昭和62年9月9日より昭和63年2月5日まで25回にわたって掲載され、多くの県民に富士川の「知水」「敬水」「馴水」の心を伝えていただき、当初の企画はほぼ達成されたものと思っている。

### 参考文献

- 1) 竹林征三：「河川創造」－「治水」史探訪・川と生きる。出版文化社発行、栗本鉄工所編、巻頭序 1993. 6
- 2) 高橋裕：河川のより良きP・Rを、にほんのかわ、第34号、pp. 2～3、1986. 6
- 3) 竹林征三：強烈な個性の富士川、今に残る先人達の偉業、治水利水新聞、第268号、pp. 7、1986. 6. 5
- 4) 第1回富士川河川懇談会、山梨県河川協会、砂防協会ふるさと地域特性を生かした川づくり 1986. 7
- 5) 竹林征三：富士川に親しむ講演会、甲府ニュース、第77号、1986. 9
- 6) 竹林征三：川は生きている河川愛護作文表彰、甲府ニュース、第78号、1986. 11
- 7) 竹林征三：小松護岸工事着工によせて、甲府ニュース、第78号、1986. 11
- 8) 竹林征三、川口雄一、小室日出男：高信頼性の横川排水機場の建設について、土木学会41会関東支部技術研究会講、1987. 4
- 9) 竹林征三：甲斐の国における川と道づくり「Piedmontpia KUSHIGATA」、甲府技術情報、No. 4、PP. 1～3、1987. 7
- 10) 竹林征三：甲斐路その(1)、鋼橋塗装、Vol. 15、No. 2、pp. 25～28、1987. 6
- 11) 竹林征三：甲斐路その(2)、鋼橋塗装、Vol. 15、No. 3、pp. 29～35、1987. 9
- 12) 竹林征三：甲斐路その(3)、鋼橋塗装、Vol. 15、No. 4、pp. 26～31、1987. 12
- 13) 竹林征三：甲斐路その(4)、鋼橋塗装、Vol. 16、No. 1、pp. 28～37、1988. 3
- 14) 竹林征三：甲斐路その(5)、鋼橋塗装、Vol. 16、No. 2、pp. 24～30、1988. 7
- 15) 植松光宏：「ふるさと文庫への道」機関図書館(1)、甲府ニュース、第87号、1987. 9
- 16) 竹林征三：“暴れ川”特集「富士川の治水」、測量Vol. 37、No. 9、pp. 11～20、1987. 9
- 17) 竹林征三：21世紀への飛翔、輝かしい21世紀の早川町をめざして、早川町への提言集21、pp. 32～36、1988. 3